

令和2年度 けが・病気の状況

大阪府立茨木支援学校 保健室
(令和2年6月～令和3年1月)

表1 保健室利用件数

	R2年度	H31年度	H30年度
外科的主訴	475	382	464
内科的主訴	467	276	466
総利用数	942	658	930
ベッド利用件数	139	117	93

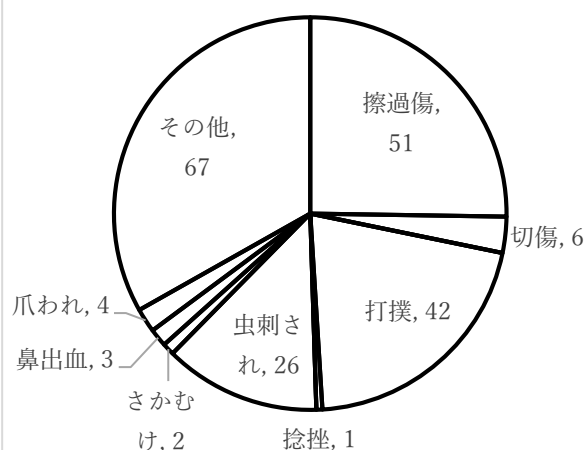
1. 保健室の利用状況

今年度の6月～1月の保健室利用件数は942件(表1)であった。

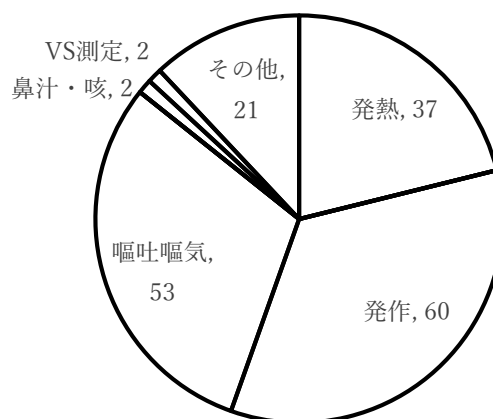
新型コロナウイルス感染症による休校のため、今年度は6月～1月での統計であり、例年より

2ヵ月短い期間であったが、(表1)保健室利用件数のどの項目についても昨年度より多く、一昨年と比較してもほぼ同様の利用件数となった。

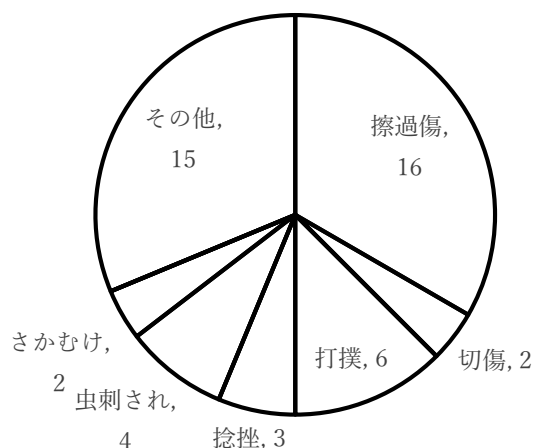
小学部 外科的主訴 202件



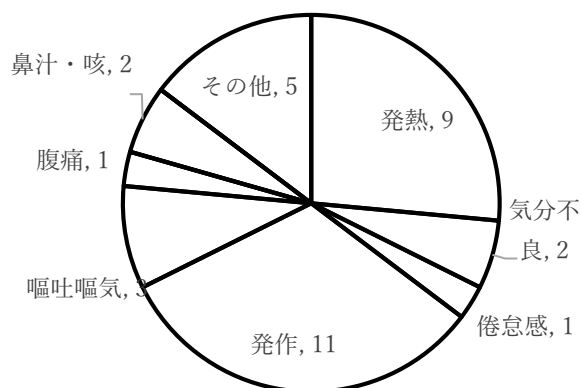
小学部 内科的主訴 175件



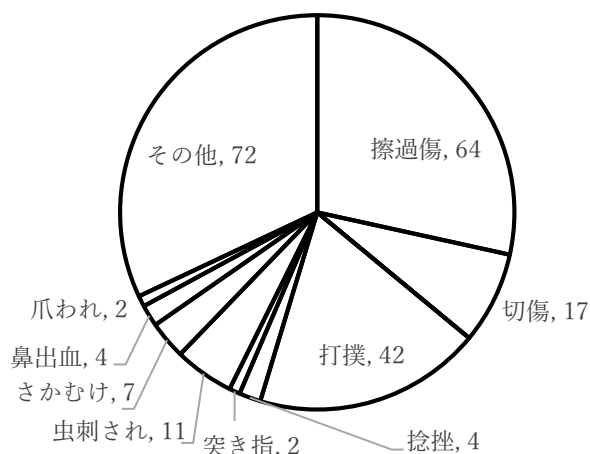
中学部 外科的主訴 48件



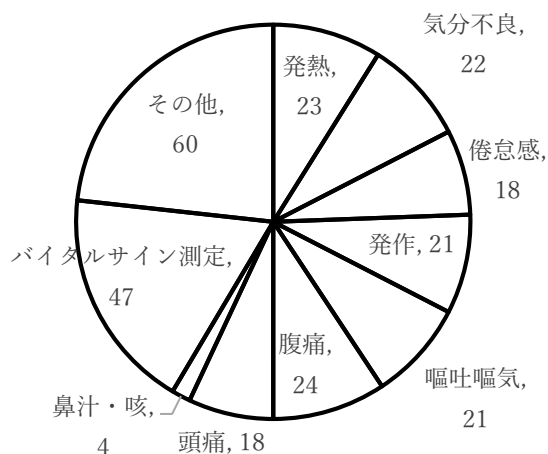
中学部 内科的主訴 34件



高等部 外科的主訴 225件



高等部 内科的主訴 258件



(1) 外科的主訴について

外科的主訴として、全学部で擦過傷、打撲、虫刺されが多かった。

その他の内容については皮膚のかぶれ、口腔内の出血、抜歯、眼の異物混入、眼の充血など様々であったが、軽微なものがほとんどであった。高等部生活課程では運動中の打撲、捻挫、突き指などがあつた。

(2) 内科的主訴について

内科的主訴として、全学部で発熱が多かった。新型コロナウイルス感染症対策における健康観察で再検し、発熱疑いの場合は他の児童生徒と接触を避けて経過観察をした後、教室に戻ることができるケースが多かった。小学部、中学部の発作については保健室で休養する場合や教室で経過観察することがあつたが、授業に戻ることがほとんどであった。高等部のバイタルサイン測定、その他については保健室での健康観察や休養が必要な生徒がいたため件数（主訴及びベッド利用）が多くなつた。

(3) 緊急時に使用する薬の使用について

今年度、校内で緊急時に使用した薬（坐薬）は2件であり、小学部1件、高等部1件であつた。2件とも保護者のお迎えで帰宅し、自宅で休養し経過観察で過ごした。

2. 災害発生の状況

表2 災害発生の状況

	外科・内科	発生月	学部	傷病名	時間	場所
1	内科	4月	高等部	発作	授業中	教室
2	内科	7月	小学部	筋緊張	授業中	教室
3	外科	7月	高等部	捻挫	授業中	教室
4	内科	8月	中学部	呼吸状態の悪化	授業中	教室
5	内科	9月	高等部	発作	昼休み中	教室
6	外科	12月	小学部	頭部外傷	授業中	教室
7	外科	1月	高等部	捻挫	授業中	運動場

災害発生の状況は(表2)の通りである。今年度の災害発生件数は1月末時点で6件(昨年度11件)

あり、学部別の内訳は小学部 2 件、中学部 1 件、高等部 3 件であった。

内科的な理由で病院受診したのは 4 件で、救急車で病院へ搬送した。外科的な理由で病院受診したのは 3 件で、内 1 件は救急車で病院受診し、内 2 件は帰宅後に病院受診した。

3. 病気による欠席や入院の状況

(1) 欠席の状況

月別一日平均欠席者数の動向は（図 1）（図 2）の通りである。【小学部 79 名、中学部 32 名、高等部 233 名】

カゼ欠席者は例年インフルエンザが流行する時期にカゼ欠席者が多くなる傾向にあるが、今年はインフルエンザの発生報告はなく、カゼとして報告が上がってきた欠席者もごくわずかな人数であった。

図 1 病欠による欠席者の月別一日平均

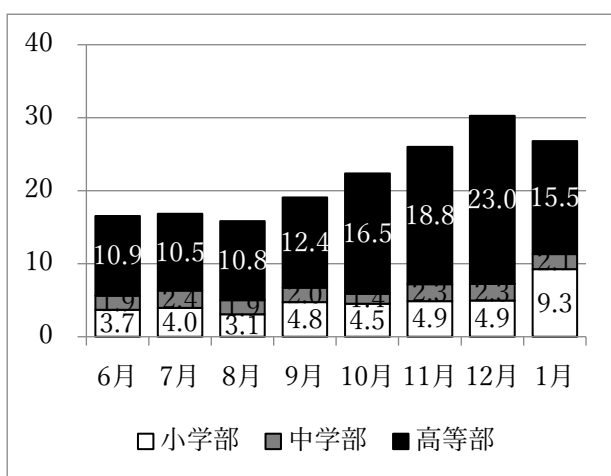
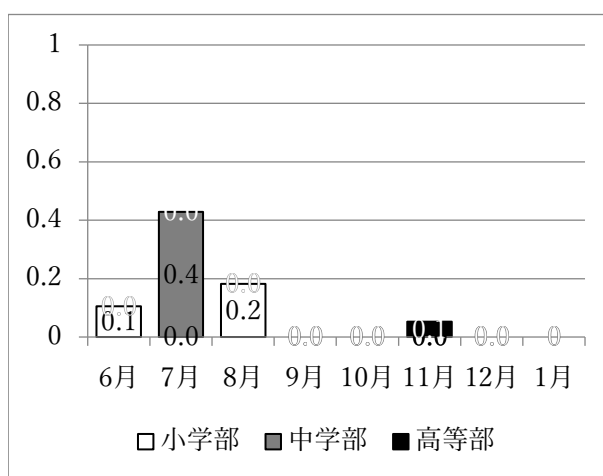


図 2 カゼによる欠席者の月別一日平均



4. その他

感染症について

水痘（1名）…長期欠席中に感染したもので、校内における感染拡大はなかった。

人口呼吸器を使用する児童生徒への取組

首席 岸尾 忍

現在、2名の人工呼吸器を使用している児童生徒が通学している。安全な学校生活を送るために、適宜ケース会議を開き、個々の自己実現に向け、検討・実施を行っている。

【現在の保護者付き添い状況】

- ・担任、看護師、保護者の役割を確認整理しながら、保護者同室待機を実施。
- ・担任が見守り、看護師が30分間隔で確認を行う中で、全授業において1日4時間程度（朝と帰りの準備時間以外）、保護者の校外一時外出を実施。